

氏名	窪 田 昌 行
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3469 号
学位授与の日付	平成12年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Women's Anxiety in Old Age and Long-Term Care Provision for the Elderly (女性の老後の不安と高齢者の介護に関する研究)
論文審査委員	教授 吉良 尚平 教授 黒田 重利 教授 工藤 尚文

学位論文内容の要旨

高齢者の介護を取り巻く環境は大きく変化し、介護の担い手の中心である女性の老後への不安と高齢者介護のニーズは変化している。本研究は、生協の組合員を対象に、女性の老後の不安、介護方法の希望、ターミナルケアの場所について、女性自身と自分の親についての意識の違い、これらへの影響因子を明らかにすることを目的とした。

統計解析では、 χ^2 検定、多重ロジスティック回帰モデルを用いた。

本研究で得られた結果は次の3点に集約できる。

- 1) 自分よりも親の老後の不安が大きかった。これは、親の介護は自分自身で行わなければならないという希望があるからである。
- 2) 自分の親は家族で介護したいと希望していたが、自分の介護は家族以外の公的サービスを中心に考えており、公的在宅サービスの将来の需要は増加すると推察される。
- 3) 女性が自分の介護を家族に期待しない理由は、介護者となる女性と、高齢者世代間の意識の違いによる。

論文審査結果の要旨

本研究は、千葉県生活クラブ生協に所属する女性1000人を対象とし、老後の不安、介護の方法、ターミナルケアの場所に関連する因子を、多重ロジスティック回帰モデルで解析したものである(調査表回収率は53.9%)。結果は、自分の介護より親の介護に不安が多いこと、自分の親は家族で介護するが自分については公的在宅サービスを考えていること、などを明らかにした。また公的在宅サービスを利用する理由として、子供との人間関係を深刻な介護によって壊したくない願望の現れと考察している。更には急速に変化している高齢者介護ニーズについて、世代を越えた調査研究が重要であるとの結論を導いている。審査の結果、本研究は老人介護の方法と場所をを規定する要因についての意識を調べた地域研究ではあるが、価値ある業績と認められた。よって本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。